

2022年度（令和4年度） 名古屋大学基金 会計報告

2022年度の名古屋大学基金の寄附受入金額は6億7,132万5,251円となりました。皆様よりあたたかいご支援を賜りましたこと、厚く御礼を申し上げます。

■2022年度の寄附受入状況

- ◇寄附金合計額【現金寄附】：5億6,608万3,251円
- ◆寄附金合計額【物納、有価証券等を含む】：6億7,132万5,251円

①法人と個人の内訳

法人からの寄附、個人からの寄附についての内訳は以下の通りです。

分類	法人			個人								合 計
	企業	その他	小計	職員	退職職員	在学生	卒業生	在学生の保護者	卒業生の家族	一般	小計	
寄附件数(件)	87	17	104	170	78	24	961	263	172	245	1,913	2,017
寄附金額(千円)	134,385	3,434	137,819	5,460	6,446	878	37,568	11,876	211,470	259,808	533,506	671,325

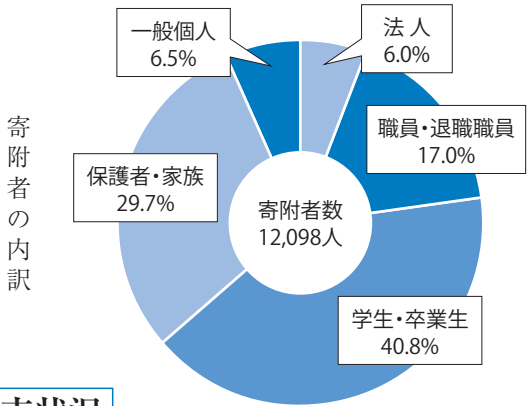
②基金本体と特定基金

基金本体と特定基金の寄附状況については以下の通りです。

分類	寄附件数(件)	寄附金額(千円)
基金本体	873	498,914
特定基金	1,144	172,411
合 計	2,017	671,325

■2005年度～2022年度の寄附累計受入状況

- ◇寄附総額【現金寄附】：86億2,486万3,402円
- ◆寄附総額【物納、有価証券等を含む】：209億2,706万2,302円
- ◆寄附者数【物納、有価証券等を含む】：12,098人



■2022年度 名古屋大学基金本体事業収支状況

《収入》

(単位：千円)

区 分	金額
前期繰越	342,595
当期運用益による収入	189,838
合 計	532,433

このほか、運用している金融商品の評価益220,242千円があります。

《支出》

(単位：千円)

区 分	金額	内 訳
下駄の鼻緒奨学金	2,400	日本人学生2名×60万円（年間） 留学生2名×60万円（年間）
G30学部留学生奨学金	43,220	72名×奨学金50万円×4学年 入学金282,000円（初年度）
海外派遣日本人学生給付金	9,143	短期研修44名（渡航費上限10万円） 交換留学26名（渡航費上限20万円）
アジアサテライトキャンパス奨学金	6,150	短期スクーリング滞在費20名
ホシザキ奨学金	63,360	奨学金144万円×22名×2年分
牧誠記念研究助成	1,000	研究助成金50万円×2名
中嶋家研究基盤環境支援事業	5,000	全学共用機器修繕／改修 4件
若手研究者支援事業	7,800	若手研究者雇用経費 1名
省エネアイデアコンテスト（2022年度限り）	296	「省エネアイデア」コンテスト副賞
石井健一郎賞（2022年度より新規）	9,683	最も顕著な功績を挙げた教職員を表彰（副賞）
次期繰越	384,381	
合 計	532,433	

■2022年度 特定基金事業総括

特定基金事業の寄附受入件数、寄附受入額、執行額については以下の通りです。

事業名	寄附件数 (件)	受入額 (千円) ※下段は累計額	執行額 (千円) ※下段は累計額	執行実績及び今後の執行計画
工学部・工学研究科支援事業	140	8,504 (91,210)	8,490 (29,260)	【実績】工学奨学奨励金制度：109件 工学研究科博士後期課程入学者のうち希望者全員(留学生を含む該当者107名)に70千円を支給。 若手研究者支援：1,000千円(2名分)
青色LED・未来材料研究 支援事業	58	21,393 (114,562)	22,918 (29,973)	【実績】知的財産管理費 1,998千円、オンライン 英会話補助 462千円、学生奨学支援 1,072千円、 研究設備・消耗品 11,048千円、学会参加費・旅 費 122千円、人件費 6,616千円、学生海外派遣助 成 1,600千円
アジア法律家育成支援事業	17	2,615 (21,351)	578 (5,584)	【実績】留学生支援のための論文執筆補助(論文 校閲)事業。 【計画】顕彰制度「名古屋大学ユス・コムーネ賞」 に係る具体的な行事の検討。
女性リーダー育成支援事業	21	632 (4,657)	0 (0)	【計画】女性研究者、女子学生、院生の育成支援 や、その推進のための調査研究及び男女共同参 画推進における活動の実施等。
名高商・名大経済学部・経済学 研究科100周年記念支援事業	33	1,336 (71,432)	209 (31,713)	【実績】講義室の改修費用 209千円。 【計画】事業名を「経済知識人育成支援事業」と 変更するとともに、学修支援事業を追加して事 業を継続。
医学系未来人材育成支援事業	40	5,750 (148,130)	6,324 (20,824)	【実績】学習支援事業として実習支援及び困窮学 生(3名)への奨学金(各100万)支援。
名古屋大学 「大学発ベンチャー応援事業」	24	30,916 (104,786)	15,115 (28,654)	【実績】モノづくりベンチャー活動支援金 7,000 千円、ビジネスプランコンテスト 2,800千円、 アイデアピッチコンテスト 400千円、その他物 品制作費・購入費 132千円)。 【計画】アイデアピッチコンテスト、そのネク ストステージであるビジネスプランコンテストを 実施し、同様に企業・機関名を冠したサポーター 賞を設け、コンテスト審査を依頼する。また、 学生の教育に加えて、大学発ベンチャー支援に 関するプログラム、モノづくりベンチャー活動 支援金事業も実施予定。
医学部附属病院支援事業	45	27,560 (263,009)	0 (11,640)	【計画】患者サービスの向上及び診療環境の充実 のため、本基金を活用予定。
名古屋大学附属図書館 支援事業	92	3,720 (25,645)	3,598 (11,202)	【実績】高木家文書修理 2,312千円、貴重書等デ ジタル化 795千円、学生用図書整備 491千円・ 令和4年11月2日に丸善名古屋本店にてブック ハンティング(本学学生による図書館資料の選 書)企画を実施し、学生用図書166点を整備。
ジェンダー平等支援事業	2	110 (51,047)	548 (19,747)	【実績】2021年12月に策定した女性教員増員策 の実施。 【計画】女性教員増員策の成果に従い、女性教員 が増員した場合などに本基金を活用し、順次各 部局への配分を実施する予定。
農学部・生命農学研究科 教育研究支援事業	58	7,972 (140,657)	7,428 (28,902)	【計画】大学院生命農学研究科博士後期課程在籍 学生への奨学金の給付(1,800千円/1学生 ※1 学年につき1名に限る)、天野エンザイム酵素一 般研究助成(1,200千円/1件)、奨励研究助成(600 千円/1件×2)。
次世代保健医療リーダー育成 支援事業	7	330 (2,616)	0 (0)	【計画】学生教育環境整備事業及び若手研究者支 援事業に使用する予定。
トランスフォーマティブ 生命分子研究所支援事業	22	309 (1,868)	0 (0)	【計画】一般市民向けイベントの実施。若手研究 者の研究支援に対して執行予定。
教育学部附属中・高等学校75 周年記念 国際化推進支援事業	34	1,253 (8,514)	0 (0)	【計画】附属学校高校生の海外派遣や、留学生の 日本国内事業費等に対して支援予定。文科省受 託研究のWWL研究開発(2021～2023年度)の 国際交流活動でも活用する予定。
創薬科学研究科支援事業	32	552 (4,727)	0 (173)	【計画】人的交流を図るための講演会の運営に係る 活動支援資金 200千円、渡航活動支援金 200千円、 創薬科学研究科創立10周年記念行事 200千円。
理学部学生支援事業	24	724 (9,052)	450 (1,355)	【実績】理学部長顕彰：6名 300千円 理学部奨励賞：30名 150千円 【計画】面接用個別ブース 2,000千円 理学部奨励賞(32名) 160千円 理学部長顕彰(6名) 300千円

事業名	寄附件数 (件)	受入額 (千円) ※下段は累計額	執行額 (千円) ※下段は累計額	執行実績及び今後の執行計画
PhD 登龍門支援事業	41	10,316 (72,574)	24,866 (36,557)	【実績】住居などの学生支援 3,560千円、海外研修などの支援 12,719千円、研究活動などの支援 8,587千円。
教育学部・教育発達科学研究科 創設70周年記念学生支援事業	11	225 (8,601)	960 (960)	「2022年度教育学部KANG奨学金」学部生2名に各480千円の支援を行った。
博物館支援事業	9	422 (1,397)	0 (0)	【計画】名大創基150周年記念として博物館スポット展示を計画。名古屋大学の歴史と東海国立大学機構の紹介し、市民から賛同を得るための機会を作る。
巨大災害から次世代を守る 減災館支援事業	37	403 (8,102)	26 (1,092)	【実績】キッズコーナー知育家具購入費。 【計画】対面による減災館観覧ツアーや特別講演などによる返礼行事の復活を検討するほか、対面参加を希望されない支援者向けには、直近の成果物頒布などによって代替することを模索。
数理科学学生支援事業	42	472 (4,422)	0 (0)	【計画】同窓会等の活動を通じて寄附の働きかけを行うとともに、本事業の趣旨について学外の方にご理解をいただけるよう広報活動。
創立75周年記念文学部 研究基盤整備支援事業	60	1,592 (13,117)	0 (0)	【計画】図書室及び図書の収蔵スペースの整備・拡充、大学院生・若手研究者の顕彰等。 文学部創立75周年記念事業 13,000千円。
創基150周年医学部 基盤整備支援事業	76	7,714 (213,523)	59,653 (91,930)	【実績】キャンパス及び動物実験施設の整備。
総合科学による古代エジプト 調査研究支援事業	6	340 (1,595)	99 (268)	㈱ワールドスキャンプロジェクト（以下、WSP）と古代エジプトの巨石建造物の構造解明に関する共同研究を開始。WSPとエジプト観光・考古省への申請・調整の結果、5月にメンフィス地区のピラミッド群を含めた世界遺産の画像、映像、3Dデータの取得が可能となり、2年ぶりの現地調査を実施した。これによって三大ピラミッド内部の通路や部屋などの3Dデータを取得。プロジェクトTシャツの作成と送付。
名古屋大学漕艇部艇庫・ 合宿所等整備支援事業	28	2,040 (32,779)	4,917 (4,917)	【実績】漕艇部新艇庫別枠工事（新艇庫）艇棚アーム52本 3,817千円、オール掛け 1,100千円。 【計画】令和艇庫建設の精算にかかる支援金（令和5年度）：調整中 平成艇庫の改修にかかる支援金（令和6年度）：3,000千円 艇の購入支援金（令和5年度）：3,000千円 艇の購入支援金（令和6年度）：5,000千円
博士課程人材育成支援事業	13	483 (2,236)	0 (0)	【実績】特定基金のホームページを改修するとともに、博士課程教育推進機構のホームページにも基金の案内を掲載。 【計画】博士課程教育推進機構及び関係教育プログラムで連携を図り、基金の活用方法を協議する。
次世代環境人材育成支援事業	9	5,633 (14,405)	1,895 (4,308)	【実績】次世代環境人材育成奨学金 700千円、フィールド教育支援 1,080千円、新講義科目「環境問題の最前線」開講（非常勤教員招へい）115千円。
食と健康に関する 学際的研究支援事業	1	15,030 (30,030)	12,964 (14,744)	【実績】「食と健康の未来創造研究公募」で2件の研究事業（1件あたり6,000千円）を採択するとともに、各事業を推進した。
若手研究者支援を推進する 研究等支援事業	17	1,760 (2,926)	0 (0)	【計画】研究等支援事業の具体支援策を整備。令和5年度支援金 1,000千円。
企業によるエンカレッジメント 奨学金事業	3	3,000 (9,500)	4,000 (6,500)	【実績】受入 4,000千円（2023年度奨学金） 支出 4,000千円（2021年度寄附金） ※うち1,000千円は翌年度入金予定。 名古屋大学特定基金エンカレッジメント奨学金 4,000千円（500千円×8件）
経済的困窮学生の 修学支援事業	141	9,305 (62,717)	12,913 (28,611)	【実績】・NU奨学金 1,200千円 ・理学部奨学金 2,400千円 ・法学研究科奨学金 9,313千円
計		172,411 (1,605,637)	187,950 (473,363)	※累計額は新型コロナ対策緊急支援金を含む

支援を受けた学生の声 ～2022年度名古屋大学基金感謝の集いより～

1. 海外派遣日本人学生奨学金受給学生

私は名古屋大学の全学間協定校であるドイツ・フライブルク大学にて、1年間、交換留学しました。この際に、名古屋大学基金から渡航費のご支援をいただきました。

留学中は、現地での科目履修に加え、専門領域である文化人類学の卒業論文のためのフィールドワークを行いました。文化人類学において、フィールドでの調査を行うことは非常に重要な調査方法です。「暮らしの美学」という言葉をテーマに、フライブルクという街で暮らす人々に、自身の生活でどんなところに美しさや心地よさを感じるのか、ということ聞き取り調査及び参与観察をしていました。私は、この留学生活全体をフィールドワークの機会と捉え、日々の生活や友人たちとの会話ひとつひとつを学びの種としました。

1年間の留学を通して、さまざまな国の友人たちと出会い刺激を受け、コロナウイルスで閉ざされかけていた自身のキャリアを、より国際的な視野で再考することもできました。

厳しい状況においても、私たちに目標を叶えたいという思いをご支援を通して繋いでくださりありがとうございました。私のみならず、皆様の寄附により叶った夢がたくさんあると思います。ご寄附をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

(文学部4年 魚住晴香さん)



私は8月下旬から9月下旬の1か月間、アメリカ合衆国ノースカロライナ州ノースカロライナ州立大学の短期留学プログラムに参加しました。コロナ禍とロシア・ウクライナ戦争の影響による物価の高騰と円安の不安の中、名古屋大学基金からの渡航費援助は非常に心強く、研修に集中して取り組みました。

私たちはアイシン、シスコ、シンジェンタという3つの会社に伺いました。自動車部品を作っている日系企業であるアイシンでは、海外駐在員とグループセッションできる機会があり、現地での生活やどのようにして海外駐在員になったかなど、貴重なお話を伺えました。シスコ、シンジェンタはそれぞれIT、農業に関する多国籍企業で、多様な人種の社員が共に働く姿や施設の様式や大きさには圧倒されました。またシンジェンタで働く日本人の社員さんとお話する機会もありました。自身も含め今回の研修参加者には将来、海外または国際的環境で働きたい人が多数いる中で、海外で働くまでの道のりや苦労などの経験談は非常に参考になりました。

ノースカロライナ研修はアメリカの食、芸術、物事の考え方など、私の人生観に非常に大きな影響を与えた1ヶ月でした。一緒に渡航した学部、学年、留学理由等が全く異なる個性豊かな20人もの学生がこのプログラムに参加できたのはやはり名古屋大学基金の支援があってこそだと思います。

(工学部2年 石川幹さん)



2. G30学部留学生奨学金受給学生

私は日本の経済や産業の成功に刺激を受け、その方法をもっと知りたいと思い、日本へ経済学を学びに行きたいと思いました。家庭の経済的な事情で日本へ留学することは難しい状況でしたが、名古屋大学の方が私の通っている高校に来ていただき、G30プログラムと奨学金について説明していただきました。この奨学金のおかげで私は日本へ留学できました。

私はインドネシアの公的債務とその経済成長への影響について研究しています。研究だけでなく、他の学生と一緒にビジネスケース大会とブルームバーグESG投資コンテストに参加したり、名古屋大学G30の学生が中心となって、模擬国連を主催したりしました。みなさまのご寄附のおかげで、私は多くの知識をまなび、様々な経験をすることができました。

私は卒業後、日本の商社で働いて、日本とインドネシアを繋ぎ、両国の貿易関係の発展に貢献したいと思っています。

このように勉強を続け、将来の夢に向かって進むことができたのは、皆様からの奨学金のおかげです。この気持ちは私だけではなく、G30奨学金をいただいている学生たちみんなの思いです。教育という贈り物は計り知れないものです。皆様が私たちの教育を支えてくださっていることを私たちは決して忘れません。

(経済学部4年 サントサ・ギフタさん)



名古屋大学Development Office (DO室)

〒464-8601 名古屋市中種区不老町

TEL.052-789-4993 FAX.052-747-6383

E-mail: kikin@mail.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学基金ホームページ <https://kikin.nagoya-u.ac.jp/>

